科目名	40. 「お風呂に入る」を支える援助と「感染予防」				
履修年次	1年次	科目区分	専門分野	単位数 (時間)	1単位 (30時間)
ディプロマポリシー(DP)	□ 人を大切にするこころ ☑ 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 □ チームの中で連携・協働するための力 □ 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	対象の生活行動を支えるために必要な知識と技術を習得することができる 感染予防方法を習得することができる				
到達目標	１）皮膚・粘膜の構造と機能、清潔援助の効果と全身への影響を踏まえた清潔行為のアセスメントをもとに、その効果が得られる衣服の交換、身体を清潔に保つための基本技術を習得することができる ２）感染成立の条件および院内感染防止を踏まえた感染経路別予防策、感染性廃棄物の取り扱いについて説明することができる ３）標準予防策を習得することができる ４）安全・安楽で自立を踏まえた技術を習得するために自己課題に計画的に取り組もうとしている				
評価方法	筆記試験（80点）、実技試験（20点）による総合評価を行う				
使用 テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会				
参考文献					
教育方法と学生への期待 (求めること)	自分の生活、他者の生活に関心を持ち、グループワークを通して「お風呂に入るとは」について考えを深め、日常の生活行動（「お風呂に入る」）の意義を理解し、看護技術の根拠を考えながら、対象を尊重し、対象の生活を整えるための基本的な知識と技術を習得してほしい。また、患者に接する機会の多い看護師は感染に関する基礎的知識をもち、原則に基づいた行動をとれるよう感染予防の意義と原則を理解し、感染予防の方法を習得してほしい。 講義・演習では事前学習が必要であり、それをもとにグループで検討することを重視します。また、演習では学生間で患者役・看護師役を交代しながら学習し、「あとは自己学習（練習）すれば技術習得できる」ことを目指し、自己学習（練習）のポイントをつかみましょう。授業（講義・演習）を受けるだけでは習得することはできません。自分のスケジュールを調整して予習・復習および技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度（正確さ）を高めるよう取り組んでください。				

回	学習項目	学習内容	授業方法
1	お風呂に入る①	人にとってお風呂に入るとは 皮膚の構造と機能	講義 演習

2	感染予防①	感染成立の条件、感染予防、院内感染の予防 標準予防策（手指衛生、個人防護具）	講義
3	感染予防②	感染経路別予防策	講義
4	感染予防③	手指衛生、個人防護具	演習 (実習室)
5	お風呂に入る②	清潔援助の効果 入浴・シャワー浴：目的・作用と身体への影響、援助方法	講義 演習
6	お風呂に入る③	人にとって衣服を着るとは 病衣の選び方・寝衣交換の援助方法	講義 演習
7	お風呂に入る④	寝衣交換の援助	演習 (実習室)
8	お風呂に入る⑤	全身清拭：目的・作用、援助方法	講義 演習
9	お風呂に入る⑥	全身清拭の援助	演習 (実習室)
10	お風呂に入る⑦	全身清拭・寝衣交換の援助	演習 (実習室)
11	お風呂に入る⑧	洗髪：目的・作用、援助方法 部分浴：目的・作用、援助方法	講義 演習
12	お風呂に入る⑨	洗髪の援助	演習 (実習室)
13	お風呂に入る⑩	部分浴の援助	演習 (実習室)
14	お風呂に入⑪	その他の清潔援助（整容、爪切り、口腔ケア）の基礎知識	講義
15	お風呂に入る⑫	患者の「お風呂に入る」のアセスメントと「お風呂に入る」を支える援助	演習